

## 文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 (①企01-15-5/5)

### 目 的

他機関との連携を図り、文化財の研究情報について、効果的に発信していくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究する。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築を推進する。

### 成 果

1. 「東京文化財研究所刊行物一覧」のウェブサイトでの公開
  - ア) 全所的アーカイブの一環として、当研究所が開所以来の刊行物を網羅した一覧を作成し、遺漏刊行物がないか各部・センターにはかって情報を収集し、個々の刊行物について把握し、その一覧を「東京文化財研究所刊行物一覧」としてウェブサイトで公開した。
  - イ) 上記の刊行物一覧に記載された刊行物のうちPDFのない刊行物についてPDF化を進めた。
  - ウ) 上記の刊行物一覧記載の各刊行物の公開レベルを確認し、公開可能なものについては端末上での閲覧を可能にするための準備を進めた。
  - エ) 上記のことがらを進めるため、東京文化財研究所アーカイブWG協議会を以下の4回にわたって開催した。2015(平成27)年8月3日、10月13日、12月25日、2016(平成28)年2月19日
  - オ) 当研究所の研究誌『美術研究』1～200号(1932(昭和7)年から1959(昭和34)年)の誌面をPDFで公開した。あわせて著作権者・同継承者不明の論文・記事等公開の手続きを進めた。
2. Picture Webで管理していた画像情報をWordPressに移行した。
3. 刊行物アーカイブシステムに過去の展覧会情報データを移行させ、運用を開始した。あわせて、刊行物アーカイブシステムの評価を行い、『日本美術年鑑』刊行のための入力と図書業務が連動するように改良を行った。
4. 調査・研究の公表として2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会で口頭発表(下記)を行った。
5. 『美術画報』第6編から第46編までの入力を完了させ、公開した。

### 発表

- ・田中淳、皿井舞「文化財情報における専門的アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み」  
2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 国立西洋美術館講堂 15.6.6

### 研究組織

- 津田徹英、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、田所泰(以上、企画情報部)、久保田裕道(無形文化遺産部)、早川泰弘(保存修復科学センター)、山内和也(文化遺産国際協力センター)、平出秀文(研究支援推進部)、津村宏臣、吉崎真弓(以上、客員研究員)